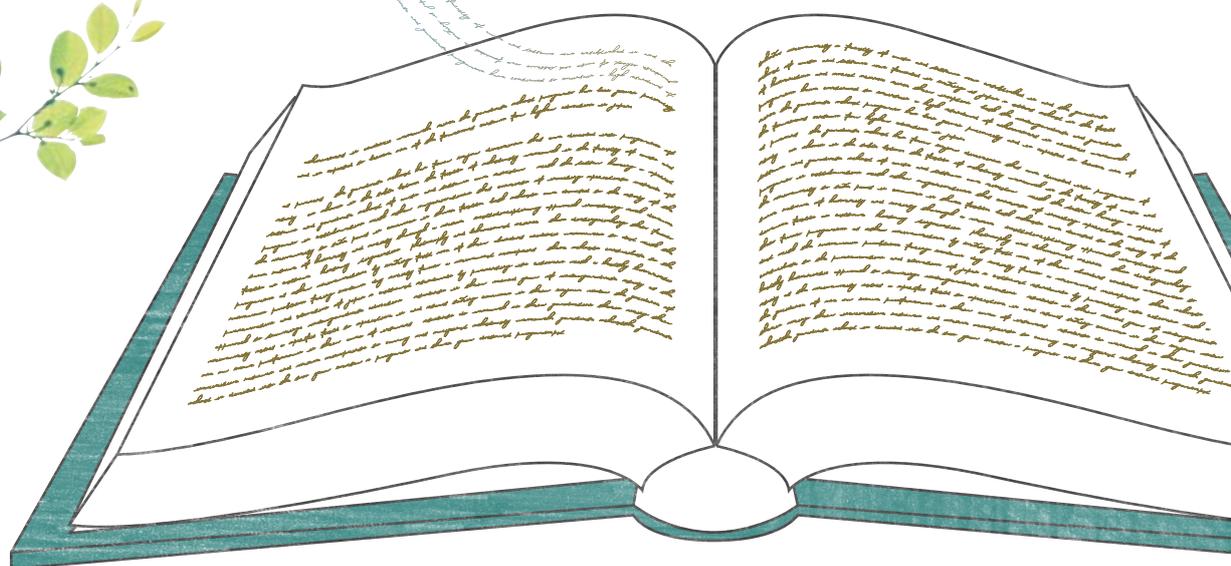




TOHOKU  
UNIVERSITY

発見と創造に向かう  
伝統の扉へ



Tohoku University Faculty of Arts and Letters

# 東北大学 文学部

学部案内

2013年度入学者用



# その意志が導く知の創造

遙かな時を超え、国境をも超えて伝えられた、人類の深い叡智。  
そこには、新たな知を創出する無限の可能性が秘められています。

この未知なる可能性の探求を喜びとする文学部での学び。  
探求のページをひもとく鍵を握るのは、あなたの知への意志です。

明日を照らす、今日の発見の感動。  
そして、未来の広い広いステージへ。

## Contents

文学部長から	3
歴史と現在	4
専修と担当教員	5
文学部の4年間の流れ	6
在学生からのメッセージ	7
研究室紹介	8
国文学／日本思想史	8
中国文学／中国思想	9
インド学仏教史／英文学	10
英語学／ドイツ文学	11
フランス文学／哲学	12
倫理学／言語学	13
国語学／日本語教育学	14
日本史／考古学	15
東洋史／ヨーロッパ史	16
東洋・日本美術史／美学・西洋美術史	17
社会学／行動科学	18
心理学／文化人類学	19
宗教学	20
文学部学生の出身地域・留学先	21
卒業生からのメッセージ	22
卒業生の進路	23

## 文学部のアドミッション・ポリシー

人間とその言語や文化、社会や歴史に対して広い関心と強い探求心を持ち、それらに関する堅実な実証的知識を身につけようとする人、そのうえでさらに、自立的かつ批判的な人間理解を追求し、現代社会が直面する様々な課題の解決に積極的に貢献しようとする人を求めています。

そのための能力として、センター試験では均衡のとれた基礎学力、前期日程試験では文学部の勉学にとって基礎科目となる国語・数学・外国語の学力、AO入試Ⅱ期ではとくに文章の読解力(読む力)と表現力(書く力と話す力)を評価します。

## 文学部の教育理念

現代世界が直面する複雑で困難な諸課題は、科学技術のみで解決を図ることは難しく、何よりも人間性への深い洞察に根ざした人文社会科学的知見を必要としています。そうした社会的要請に応え、人間性に対する鋭敏な感受性と現実社会に対する透徹した認識とを基盤に、国際社会の発展に積極的に貢献しうる、知性と行動力をもった人材の養成を目指します。

## 文学部長から

文学部長 おお ぶち 大瀨 けん いち 憲一

1950年生まれ  
東北大学大学院文学研究科心理学講座教授・博士(文学)。  
専門は社会心理学、特に紛争解決と攻撃性の研究。  
著書に『謝罪の研究』(2010)など。  
2011年4月から東北大学文学部長、大学院文学研究科長。



文学部で学ぶことの意義は、第一に、文学、思想、言語、歴史、社会など多様な人間文化に関する基礎的知識を幅広く学習することによって、自然科学的方法とは異なる人文科学的方法を理解し、身につけることです。このため、文学部では我が国最高水準の教授陣を揃え、また最先端の学術資料を整備して学生諸君の勉学を支援する体制を整えています。

文学部は”Arts and Letters”と表記されます。”Letters”とは「文(文書、文献、文章)」という意味であって、狭い意味での「文学(小説、評論)」だけを指すものではありません。文学部とは、これを含め、主として文字によって表現される人間精神、即ち文化を研究対象とする学問分野です。

関連用語に”Literacy”(言語能力)というものがあり、近年は「情報リテラシー」などとして使われます。重要なことは、この言葉は「批判的に活用する能力」を指すという点です。現代人は膨大な情報の中に生きていますが、これに一方的に流されるのではなく、批判的に吟味し、真実を見極め、有益なものを選び分ける眼が必要です。

こうした優れた批判精神は、広い教養とともに、一つの専門を深く極めることによるのみ培われるものです。教員もまたこれを目指し、皆さんとともに研鑽を重ねていきたいと思っています。

# 歴史と現在

History and Present

## 恵まれた研究環境と伝統の底力

東北大学文学部の母体は、1922年(大正11年)、仙台市片平丁に開設された東北帝国大学法文学部です。第一次世界大戦(1914-1918)後の、大正デモクラシーの時代のこと、法文学部にはこの大正後期から昭和初期にかけて、日本の人文科学の近代化をリードする教授がそろい、その教授たちの講義は、人文科学を学ぶ学生のみならず、教育学、法学、経済学を学ぶ学生をも魅了しました。法文学部の発足は、1907年(明治40年)の東北大学の創立から15年後のことでしたが、発足当初から研究環境に恵まれ、とりわけ、大学の附属図書館では、狩野亨吉の膨大な旧蔵書(今日も、人文学関係書を主とする約十万八千冊の書籍から成る一大コレクション「狩野文庫」として附属図書館が所蔵する)を備えるなど、質量ともに優れた図書を十分に活用できる環境にありました。

その後、第二次世界大戦が終結するまでの戦時のように、学問・研究への思いも断たれるほどの不幸な時代がありましたが、そうした苦難の中にあっても、この恵まれた環境は保たれ、いつそうの充実を遂げました(たとえば、附属図書館では、夏目漱石の旧蔵書約三千冊を収める「漱石文庫」など、貴重な蔵書・コレクションが増え続けました)。1949年(昭和24年)に、東北大学が新制大学として再出発し、文学部が発足しても、1973年(昭和48年)に、キャンパスが片平から現在の川内に移転しても、2004年(平成16年)に、他の国立大学と同じく東北大学が法人化しても、「研究第一主義」という全学の理念とともに、その伝統は確実に受け継がれ、文学部の様々な場に今も息づいており、伝統の底力をしみじみと実感する機会も少なくありません。

## 地に足を着け、世界に臨む — 深まりを究め、広がりを知る —

東北大学文学部には現在25の専修があります。その多彩さは多様性と個性を重んずる人文社会科学のあり方にふさわしいものです。そこには、少人数教育を重視し、ひとりひとりの関心や長所をたいせつにする学びの場が用意されています。専門的な知識と思考法を深く学ぶことは、人文社会科学の幅広い基礎知識や、基本的な語学力を身につけることと決して矛盾しません。深い専門的な知と広い基礎的な知とが結び付くところに、人間の存在、文化、社会を根源的に問い直す「実学」としての人文社会科学の本領が発揮されます。そこでは、全学の伝統的理念である「研究第一主義」が、全学のもう一つの伝統的理念「門戸開放主義」へとそのままつながります。学の深まりこそが学の広がりを保証し、その新たな広がりこそがさらなる深まりをもたらします。

このような学びの場である東北大学文学部は、地域社会に深く根ざし、国際社会に広く開かれた学びの場でもあります。学部内に東北文化研究室という機関もあるように、東北地方の文化についての研究が積極的に進められ、その成果は授業の場に大いに生かされています。また、五人の外国人教員がおり、海外からの多くの留学生が在籍し、学術交流協定を結んでいる大学をはじめとする海外の大学に留学する機会にも恵まれ、海外の学者を招いての講演会やシンポジウムもしばしば開かれているように、文学部はまさに国際的な場でもあります。

## そして、未来へ — 人文社会科学の底力を発揮する —

21世紀はさらなる情報化と合理化に向かって科学技術が飛躍的に発展し続ける時代となるでしょう。そのような世界であるからこそ、人間の存在、文化、社会を根源的に問い直す「実学」としての人文社会科学の重要性は増して行くはずで、東北大学文学部は、その「実学」を担う新人が巣立つ学舎であり続けます。伝統は清新であり続けることで保たれます。東北大学文学部の伝統を支えるのは、清新なみなさんなのです。

文学部の25専修についてはこの後の「研究室紹介」を御覧ください。教員の専門やプロフィールについては文学部のホームページ(<http://www.sal.tohoku.ac.jp/index-j.html>)を御覧ください。

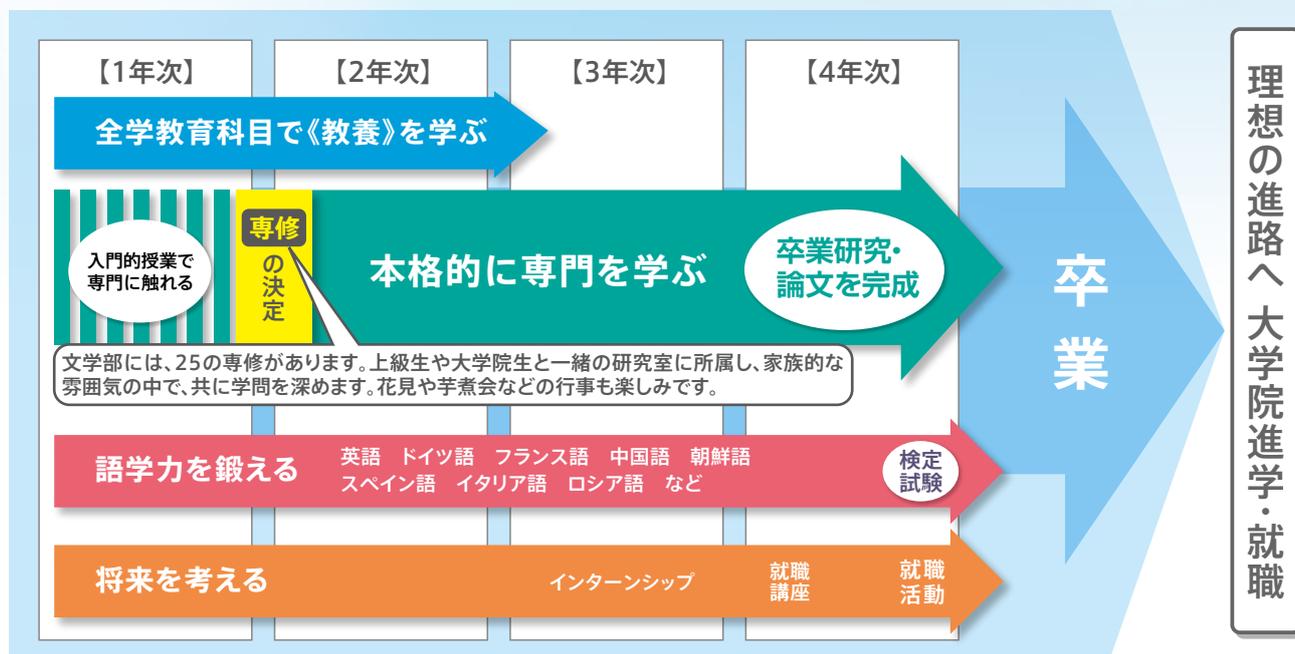
# 専修と担当教員 (平成24年4月現在)

Learning and Charge Teacher

専修	教授	准教授	助教・助手
国文学	●佐藤 伸宏 ●佐倉 由泰	●横溝 博	●高橋 早苗
日本思想史	●佐藤 弘夫	●片岡 龍	●富樫 進
中国文学	●佐竹 保子	●馬 暁地	
中国思想	●三浦 秀一	●齋藤 智寛	●高橋 睦美
インド学仏教史	●桜井 宗信 ●吉水 清孝		●尾園 絢一
英文学	●大河内 昌	●岩田 美喜 ●ティンク,ジェイムズ・マイケル	
英語学	●金子 義明	●島 越郎	●中村 太一
ドイツ文学	●森本 浩一 ●シュミッツ, プリギッテ・アンネマリー	●嶋崎 啓	
フランス文学	●阿部 宏 ●今井 勉	●メヴェル, ヤン・エリック ●黒岩 卓	●島貫 葉子
哲学	●野家 啓一 ●座小田 豊	●直江 清隆 ●荻原 理 ●原 望	●伊藤 周史
倫理学	●戸島 貴代志	●村山 達也	●大森 史博
言語学	●千種 眞一 ●後藤 齊	●小泉 政利	●金 情浩
国語学	●齋藤 倫明 ●小林 隆	●大木 一夫 ●甲田 直美	
日本語教育学	●才田 いずみ	●名嶋 義直 ●田中 重人	
日本史	●大藤 修 ●柳原 敏昭	●安達 宏昭 ●堀 裕	
考古学	●阿子島 香	●鹿又 喜隆	●佐野 勝宏
東洋史	●熊本 崇 ●川合 安	●大野 晃嗣	
ヨーロッパ史	●小野 善彦	●有光 秀行	●大谷 啓
東洋・日本美術史	●長岡 龍作 ●泉 武夫		●海野 啓之
美学・西洋美術史 (イタリア語)	●尾崎 彰宏	●芳賀 京子 ●エンリコ・フォンガロ	
社会学	●長谷川 公一 ●正村 俊之 ●永井 彰	●下夷 美幸	●木村 雅史
行動科学	●佐藤 嘉倫 ●木村 邦博	●浜田 宏 ●永吉 希久子	●川嶋 伸佳
心理学	●大淵 憲一 ●行場 次朗 ●阿部 恒之	●坂井 信之 ●辻本 昌弘	
文化人類学	●沼崎 一郎	●川口 幸大	
宗教学	●鈴木 岩弓	●木村 敏明 ●山田 仁史	●庄司 一平

# 文学部の4年間の流れ

Flow of four years



文学部には、25の専修があります。上級生や大学院生と一緒に研究室に所属し、家族的な雰囲気の中で、共に学問を深めます。花見や芋煮会などの行事も楽しめます。

## 1年次

- 入学・オリエンテーション ●例年、4月6日頃に東北大学の入学式が行われています。
- 文学部の新入生オリエンテーションは、おおむね入学式の翌日に行われます。 ●学部全体のオリエンテーションでは、文学部での勉強・生活について説明します。
- クラスオリエンテーションでは、クラス・アドバイザーが身近な助言者として説明します。クラス・アドバイザーとは、1年次学生に対して14～15名に1名の割合で相談相手を務める教員のことで、日常の学生生活に関する相談に対応します。
- 新入生オリエンテーションの中には、研究室訪問(第1回)の予定も含まれています。実際に関心のある専修の研究室を訪ね、教員から直接いろいろな話を聞くことができます。
- 1年次には、主に、基幹科目・展開科目・共通科目から成る全学教育科目を幅広く学ぶこととなりますが、その他に、1年次学生を対象とした文学部の専門教育科目として、必修科目の「人文社会総論」、「英語原書講読入門」と選択科目の「人文社会序論」が用意されています。
- 人文社会総論では、文学部の25専修すべての学問の内容を幅広く総合的に学べます。
- 英語原書講読入門では、文学部の教員による授業の中で、専門的な英語力を養います。 ●人文社会序論では、専門の研究・授業に結び付く様々なことが学べます。
- 10月初めには、専修決定オリエンテーションが開かれ、第2回の研究室訪問も行われます。また、10月中には、専修志望予備調査もあります。2年次以降、自分が進み、学びたい専修を本格的に定める時期の始まりです。
- 例年、1月中旬頃に、専修志望本調査が行われます。 ●3月に、2年次から所属する専修が本人の希望と1年次の成績に基づいて決定されます。

## 2年次

- 4月上旬の2年次ガイダンスから、文学部の専修所属学生としての生活が始まります。これからは専修の教員がアドバイザーとなります。同年の学生はもちろん、研究室の大学院生や学部3・4年生もよき相談相手となります。
- 全学教育科目とともに、文学部の基礎専門科目(概論・講読等)も履修することになります。川内北と川内南の両キャンパスを行き来することが多くなるはずですが。
- 12月下旬には、修士論文の、1月はじめには、卒業論文のそれぞれ提出締切があります。研究室に独特の緊張感が漂う中、がんばっている先輩たちの姿から多くの貴重なことが学べそうです。秋から冬にかけては、多くの研究室で、修士論文・卒業論文の中間発表会や提出後の発表会も行われています。

## 3年次

- 3年次学生として、本格的に専門に取り組むこととなります。一般に、3年次の時、研究室で過ごす時間が一番多くなるようです。図書館を利用する機会も増えるはずですが。
- 公務員志望者を対象とした公務員講座(有料)が始まります。 ●インターンシップ・プログラムや海外留学も、3年次に行くというケースが多いです。
- 3年次学生としての秋、研究室の行事に参加する一方で、将来の就職・進学のことや、卒業論文のテーマを本格的に考え始める時期かと思えます。
- 3年次学生としての冬、就職活動もそろそろスタートです。

## 4年次

- 卒業論文の準備とともに、就職活動、教育実習、就職のための様々な試験等でもともいそがしくなります。これまで様々な場で様々な機会に学んできたことを存分に発揮できると思います。
- 1月初旬に、卒業論文提出の締切があります。 ●2月には、各研究室で、卒業論文の口頭試問、卒業論文発表会が行われるとともに、予餞会(送別会)も開かれます。先輩の2年生・3年生のありがたさを深く再認識する時期かも知れません。
- 3月下旬に、学位記授与式(卒業式)が開催されます。学士(文学)の学位とともに、大学生生活で得られたたくさんのものを実感できると思います。

## ●取得可能な免許／資格等

<b>中学校教諭一種免許状</b> (国語、社会、英語、ドイツ語、フランス語、宗教)	<b>高等学校教諭一種免許状</b> (国語、地理歴史、公民、英語、ドイツ語、フランス語、宗教)	日本語教員	学芸員	社会調査士
---	---	-------	-----	-------

# 在学生からのメッセージ

Message from Student



堤 薫

中国思想専修  
平成22年度入学  
秋田県立秋田高等学校出身

1

私は中国思想研究室に所属しています。私は中学・高校時代に古典の授業で習った儒学思想に興味を持ち、儒学についてもっと深く知りたいと思いこの研究室に入ることに決めました。講読や演習と呼ばれる授業ではいわゆる漢文を読みます。高校時代までとは違い返り点や送り仮名が全くついていない漢字だらけの原文を読んでいくので、最初はどこから手をつけていか見当もつきませんでした。研究室の優しい先輩方が辞書の引き方から丁寧に教えてくれたおかげで自分でも読めるようになりました。東北大学の文学部は2年生から研究室に配属されるので、早い段階から専門的な知識を身につけることができます。授業の予習などで専門の辞書や資料が必要な時も自由に手にすることができます。

また私は高校の教員を目指しているため、国文学や西洋哲学、さらに教育学部や法学部の授業も受講しました。自分の専門分野以外の授業を履修できるのも文学部の魅力の一つです。

「文学部の人って何やってるの?将来何になるの?」

「文学部＝読書、就職できない」という印象を持っている人は大抵この質問をくださいます。しかし、文学部は決して永遠に本ばかり読む学部ではありません。

私は、文学部は人間が人間であるからこそ生み出せる様々な事象を学ぶ場だと思っています。和歌、英詩、宗教、思想…これらはすべて、人間がその尊い頭脳を駆使して作り上げてきたものです。私は人間がこれらを作る際に必ず用いる、言語について勉強しています。私が発した言葉は私のなかで何が起こって現れたものなのか、という疑問を持ったことが、言語学を志したきっかけです。

文学部での学びをそのまま活かせる職業はたしかに少ないかもしれませんが、しかし、人間の持つ力について学ぶことは、人間として生きる毎日をより貴重なものに感じさせてくれ、人生のあらゆる場面で生きるに違いないと、私は考えています。(因みに、実際は一般企業で活躍する文学部OB也大勢います!!ご安心を!!)



松平 泉

言語学専修  
平成22年度入学  
宮城県宮城第一高等学校出身

2



佐々木 航哉

心理学専修  
平成22年度入学  
宮城県仙台第一高等学校出身

3

私の所属する心理学研究室では“人とつながり”が特に大切であるように感じます。文学部で扱われる心理学は大きく分けて「社会心理学」「実験心理学」の二つですが、そのどちらの領域を学ぶ上でも実際の調査や実験が重要視されます。しかし、これらを一人で成し遂げるのは簡単ではありません。お互いに協力し合いながら調査を進めていく必要があります。授業カリキュラムは大変充実しており、研究室に所属したての二年生のうちから数名でグループを組み、質問紙を使った調査やさまざまな実験法を体験することができます。先輩方を行う実験に積極的に参加することも自己の視野を広げる上で大いに役立ち、ふと漏らされる苦勞話は先の助けとなってくれることでしょう。また、研究室に設けられた談話スペースでは院生の先輩だけでなく頻りに先生方もいらっしゃるため交流の機会はとても多いです。こうした先輩方や先生方との深いつながりのおかげで研究室の環境はより親しみやすいものとなり、のびのびと研究に打ち込むことができます。

# 研究室紹介

Laboratory introduction

## 国文学

JAPANESE LITERATURE



写真:国文学研究室 卒業・修了記念写真(平成23年度)

国文学は、古代から現代に至る、きわめて幅広く多様な日本の文学(文芸)を研究の対象とします。国文学の研究にはさまざまな立場や方法がありますが、東北大学国文学研究室では、文芸が芸術の一種であるとの見地に立ち、日本文芸の様式・特質・展開を明らかにするとともに、その意義を世界文芸との関連において探求することをめざして、活発な研究と教育が行われています。

本研究室には、多くの大学院生、留学生も在籍しており、新たな見方・考え方・知識を得る機会にも恵まれています。また、卒業生は約1,000人に及び、国内・海外の学界・教育界・図書館・ジャーナリズム・出版界・官公署・企業など多方面で活躍しており、卒業生と在校生から成る「東北大学国文学科杜の会」も組織されています。さまざまな人との貴重な出会いと交流の中、本研究室で着実に多彩に柔軟に国文学を学ぶことを通して、幅広い視野から新たな発想で文化・社会を深く理解する力を身につけることが期待されます。

## 日本思想史

HISTORY OF JAPANESE THOUGHT



写真:研究室の学生たち

日本思想史学は諸外国や諸民族との対比において、「日本的」なものの考え方や価値観の形成過程とその独自性を、またそれに抵抗する潮流をもふくめて、歴史的な視点から客観的に明らかにしようとする学問です。この列島上で展開された、古代から現代までのさまざまな思想的・文化的な営みを広く明らかにすることによって、人間とは何か、「日本人」とは何か、といった問題を探っていくことを目的としています。

東北大学の日本思想史専修は、この分野の草分け的な存在として、大正12年の開設以来、一貫してわが国の日本思想史研究界の中心的役割を担い、多数のすぐれた研究者を国内外に送りだしてきました。研究室には多くの大学院生、留学生が在籍し、また卒業生は、教育界や公務員の世界をはじめ、商社・銀行・マスコミ・出版等の企業社会などでも、活躍しています。

本専修では授業のほかにも、定例研究会や史料講読会の開催、学術雑誌の刊行、花見・芋煮会・野球大会など、大学院生や学生主体の活発で多彩な活動が行われています。

# 中国文学

CHINESE LITERATURE



写真:明・容與堂本「水滸伝」(上海人民出版社刊)より

空間的にはアジア大陸のほぼ東半分。時間的には紀元前十数世紀から現在に至るまで。そこに繰り広げられる言語と文学の営為を、わが研究室は対象とします。時空の範囲が広い上、記録を重視する文化背景があるために、書記言語・音声言語ともさまざまな変遷と交流の軌跡を示し、文学も、百を優に越すジャンルを擁します。学生は、この中からもっとも関心を引く対象を選択し、必要な原典を、漢文・中国語・日本語を駆使して解説していきます。この作業を助けるスタッフは現在二人、魏晋南北朝時代を中心に文学研究に従事する佐竹保子老師、中国人教師で唐詩に造詣の深い馬曉地老師です。卒業後は高校・中学の教師になる人・大学院に進む人のほか、培った語学力を生かして、中国市場に進出する企業や、マスコミ(出版社・新聞社・TV局)やお役所で活躍する人もいます。

# 中国思想

CHINESE PHILOSOPHY



写真:泉が岳登山

欧州全体を包んでも余りある広々とした大地のうえで、悠久の歴史を持つ中国社会は変化に富む豊かな文化を生み出してきました。その多種多様な文化の個別的な内容や特徴、あるいは他の諸地域の文化との間の共通性や異質性などについて、文献を読みとぎながら研究をおこなう学問の一環として、特に中国思想という学問分野では、人々が営んだ思想に光をあててそれらの具体的様相や歴史的意味、さらには現在の意義を追究してゆきます。中国の思想は、古くから日本人の生き方や考え方に大きな影響を与えてきた観念の体系として、現代日本人の意識にもその奥深いところで強く働きかけています。中国の思想的文献との真剣な対話を通して、人間の本性や運命、社会の在り方などに関する中国人の思想それ自体はもとより、これらの諸問題をめぐる彼我の異同をも考えてゆこうと志す学生を歓迎します。

# 研究室紹介

Laboratory introduction

## インド学仏教史

INDOLOGY AND HISTORY OF INDIAN BUDDHISM



写真:研究室風景

インド・ヨーロッパ語族の一分派であるアーリヤ諸部族がインド進出以前にもっていた言語文化の背景から、インドに発して、チベット、東アジアに展開した仏教に至る、3000年を超える時代を対象とします。ヴェーダ、ウパニシャッド、マハーバーラタ、ヒンドゥー教典、古典文献(文学、哲学など)と、初期仏典、大乘教典、論書、密教教典などの仏教文献とを中心に、厳密な原典研究を目指しています。授業では文法書や研究書を参照しつつ、基礎的な原典を読みます。遙か昔に遠い地に生きた人々が遺した文献は、人生、死後の問題、世界、宇宙の構成などに亘って真剣な思考と議論の跡を伝え、現代の私たちにも直接訴えかける人類の古典です。かの地で確立し我が国に伝わった「業」や「輪廻」などの諸概念を源から辿ることができ、他方、ヒンドゥー社会独特の人生観や価値観を学ぶことができます。恵まれた環境で、人類史という普遍軸を頭の中におきながら、国際協力の伝統を誇るこの分野に挑戦する有為な若者を待っています。

## 英文学

ENGLISH LITERATURE



写真:イギリス人教師による授業風景

英文学の世界は広大な時間と空間に広がっています。紀元九世紀頃から現代に至る小説、演劇、詩などいろいろなジャンルがあり、しかも、地域的には必ずしもイギリスに限定されません。オーストラリア、南アフリカ、カナダなどの文学、さらにはアメリカ文学も広い意味での英文学に含めることができるでしょう。現代のイギリスでは、カズオ・イシグロなど、文化的に多様な背景を持った作家たちが活躍していることを見ても分かるように、「英」文学は英語で書かれた文学のすべてを扱うといってもよいのです。現在の英文学研究室は、ロマン派文学を専門とする大河内昌教授と、近代演劇を専門とする岩田美喜准教授、ルネサンス期の英文学を専門とするジェームズ・ティンク准教授の3名が講義を担当しています。若い皆さんには、さまざまな作品を広く、深く、そして何よりも楽しみながら読むことで、偏りのない判断力と豊かな思考力・想像力とを育てていただきたいものです。

# 英語学

ENGLISH LINGUISTICS



写真:英語学研究室芋煮会@牛越橋

英語学では、現代言語学の観点から英語の様々な側面を研究します。英語の仕組みを研究する分野には、語が結合して文ができあがる仕組みを扱う統語論、音声上の仕組みを扱う音韻論、語や文の意味を扱う意味論があります。また、現実の場面での英語の用いられ方を研究する語用論や、情報伝達上の役割を研究する機能論などがあります。さらに、日英語対照研究、英語教育への応用、第1・第2言語の習得、脳研究に係わる認知科学等の分野とも密接な関連を持っています。

英語学の研究では、十分な英語力が前提となります。英語学の授業に加えて、高等英文解釈法や英語母語話者による英語論文作成法を通して、読解力と表現力の養成に努めています。近年は、英語力増進をめざして海外留学を経験する学生も増加しています。卒業生は、教員、公務員、マスコミ、一般企業など多方面で活躍しています。また、毎年数名、より高度な研究をめざして大学院に進学しています。

# ドイツ文学

GERMAN LITERATURE



写真:研究室風景

「ドイツ文学」という古風な名前が付いていますが、文学に限らず、ヨーロッパの中・東部に広がる「ドイツ語圏」に由来する文化を学び考える研究室です。

「白雪姫」「赤ずきん」で知られるグリム童話やミヒャエル・エンデの児童文学、バッハからマーラーまでのクラシック音楽、サッカーのブンデスリーガや個性的なジャーマン・ロック、質実剛健のドイツ車、ソーセージとビールに代表される食文化など、ドイツ語圏由来の文化は意外と私たちの身の回りにあふれています。

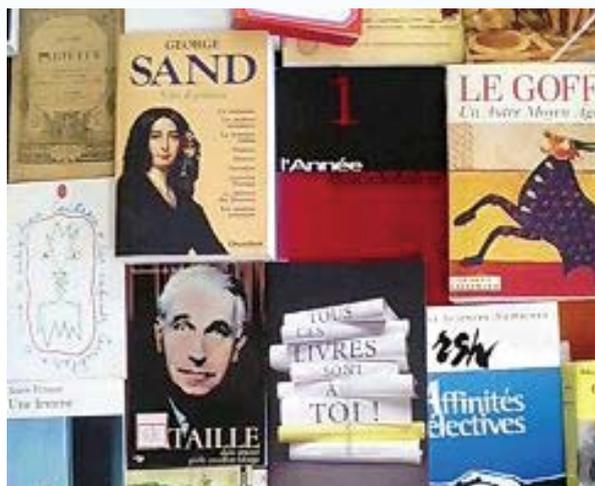
高校までは触れることの少ないヨーロッパ文化と向き合うことで、人間が生み出すものの多様な面白さを発見することができるでしょう。研究室では、短期留学によって見聞を広めるためのお手伝いもしています。自由で開放的な研究室から巣立った個性的な卒業生たちは、ジャーナリズム・出版・情報などの民間企業、あるいは教育・公務の多様な現場で活躍しています。

# 研究室紹介

Laboratory introduction

## フランス文学

FRENCH LITERATURE



フランス文学専修では、教員4名(含フランス人教員1名)の下で、フランスの文学、言語、思想、社会、歴史、美術、映像等について研究します。「フランス」という言葉は長らく華やかなイメージや憧れを喚起してきました。今日なお1週間もパリに滞在すればその雰囲気は味わえるかも知れません。しかし、まずは言語運用の訓練や厳密な原典読解によって確たる思考力を身につけなければ、フランスという異文化の一端をも真に理解することは出来ないでしょう。ここで学ぶ学生は研究対象への没頭、勉強会への参加、卒論執筆、長・短期の留学等を通して、深い異文化理解に至ります。勉学の傍ら、花見や芋煮会などの催しもよく行っています。和気藹々とした雰囲気の中で、教師、院生の薫陶を受けつつ、フランス文学専修の良き伝統は継承されているのです。大学院に進学する学生は、より高度な研究活動とより繊細なフランス語運用能力の獲得を目指します。卒業生は、教育・研究職、フランス語能力を活かした公務員や企業人などの道を歩んでいます。

## 哲学

PHILOSOPHY



写真:哲学関係文献

哲学(philosophy)という言葉は「知を愛する」という意味のギリシア語に由来しています。「知を愛する」ことは、人を愛することと同じように、誰にでも開かれた普遍的な営みです。実際、プラトンもアリストテレスも、哲学は単純な「驚き」から始まると述べています。もちろん、ただ驚いているばかりでは哲学は始まりません。その不思議や謎を理論的に解きほぐし、物事の根本に遡って考え抜くことが要求されます。そのために必要なのは、ソクラテスが実践したように、筋の通った議論を最後まで続けることだけです。その意味で、哲学は知的好奇心と理論的探究心を持つ者なら誰でも参加できる、「知」のマラソン・レースだと言えるでしょう。

私たちの研究室が主に扱うのはヨーロッパを中心とした西洋哲学であり、現在のスタッフの研究領域は、古代哲学、近現代哲学、科学哲学、生命環境倫理学と多岐にわたります。好奇心と持久力をそなえたみなさんが、観客ではなく競技者として私たちのレースに参加されることを期待してやみません。

# 倫理学

ETHICS



写真:卒業祝賀会の記念撮影

倫理学専修では、ドイツとフランスの倫理思想を中心としてヨーロッパの諸思想を体系的ならびに歴史的に研究しています。とくに人間における生と死、自然と自由、自己と他者、文化と価値といった基本主題をはじめ、現代の文明と社会がひき起こす環境や生命の問題にもとりくみながら、人間とはなにか、人間はいかに生きるべきか、という初心の問いのもとに、人間存在の根本的な本質と全体的な構造を追究しています。そのかぎり、すぐれた意味において〈人間の学〉であるといえるでしょう。

研究を進めるうえで外国語(英語・ドイツ語・フランス語など)の読解能力が必要になります。それはたんに研究手段となるばかりでなく、思考力を鍛え、世界観や人生観を広げてくれます。

私たちの研究室は哲学専修とともに合同で研究活動や諸行事を行っており、両専修の教員と学生の交流、全集や専門雑誌などの図書資料にも恵まれています。

# 言語学

LINGUISTICS



写真:非常勤講師による集中講義

言語学は、人間のことばそのものを研究して、「ことばとは何か、ことばはどのように働いているのか」という根本的な問いに答えようとする学問です。研究の対象とする言語の選択に制限はなく、日本語はもちろん、英語のようななじみのある言語から名前もほとんど聞いたことのないマイナーな言語まで、話し手の数の多さや政治的・経済的な力の優劣を問わず、すべて扱うことができます。個々の言語の研究をおこなう際には、その言語だけに注目することもできますし、歴史的変化や地域・社会階層・場面による変異、あるいは他の言語との比較を考慮するアプローチもあります。一方、人間の言語の普遍的な特徴を考察することもあり、最近では、ことばの理解や産出を司る脳の仕組みを解明して、「なぜことばが話せるのか、なぜことばを失うことがあるのか」という問いに答えようとする言語認知脳科学といった先端領域にも意欲的に取り組んでいます。

ことばへの強い関心と自由な想像力に富んだ皆さんを、言語学研究室は歓迎します。

# 研究室紹介

Laboratory introduction

## 国語学

JAPANESE LINGUISTICS



写真:夏休みに行われる方言調査

国語学は、過去および現在の日本語、または過去から現在へ変遷した日本語を研究対象とする学問です。最近では日本語学とも呼ばれています。これらの日本語には、中央の言葉ばかりでなく方言も含まれています。また、言語構造の上からは、音韻・語彙・文法・文章・文字・言語行動等の研究分野があり、理論的かつ実証的に研究されています。現代語研究では、言語学の最新の理論を参照することもよくあります。方言研究には実地調査等のフィールドワークも含まれますし、音声の研究では、コンピューターによる解析や音声実験も重要な分析手段となります。いずれにせよ、母国語を研究するためには、身の回りの膨大な資料を有効に利用するとともに、自らの言語感覚を鋭敏に研ぎ澄ますことが重要です。

研究室には、世界各地からの留学生が多く、毎年10人以上の外国人留学生が在籍しています。

卒業後は、研究・教育に従事する者が多いですが、専門のある程度生かしながら放送・出版関係、官庁、一般企業等で活躍する場合もかなり見られます。

## 日本語教育学

APPLIED JAPANESE LINGUISTICS



写真:実習中の授業風景

日本語教育学の扱う領域は、大きく分けて2つあります。ひとつは、外国人学習者に日本語を効果的に教える方法を研究することです。もうひとつは、異なる文化社会に育った人間同士がコミュニケーションを行う場合に、どうすればスムーズな相互理解が達成できるのかを考え、実現するための方法を追究することです。

本専修の学生は、多様な文化背景の留学生とともに、明るく自由な雰囲気のもとで、日本語や日本語の学習・教育について学び、言語や教育に留まらない広い視点から日本社会への理解を深めます。そして、日本語教育学実習では、これらの総合的な知識を生かして日本語コースを学生自身がデザインし、外国人学習者に教えるという貴重な体験をすることになります。また、授業観察用機器の使用法や統計的手法の基礎、論文の書き方や発表のしかたを実践的に習得する授業もあります。

日本語教育学の卒業生は、国内外の日本語教員や大学院進学という進路のほか、グローバル化の進んだ現代社会にふさわしい、異文化を尊重する柔軟な発想と広い視野をもった人材として、多方面で活躍しています。

# 日本史

JAPANESE HISTORY



写真:史料整理実習

人文社会科学は人間と社会についてさまざまな角度から考える学問ですが、歴史学は過去を対象にします。日本史学にあつては、日本の国家と社会、およびその構成員であった人々のさまざまな活動と、そこから生み出された文化、そして他国・他地域・他民族との関わり方などの歴史的展開を研究対象としています。大学で歴史学を学ぶことは、既成の歴史的知識や歴史像を覚えこむことではありません。過去の人々が生活や社会的営みのなかで生み出し今日に伝わっている文書や日記などの記録を主たる史料とし、その読解と分析を通して自身で歴史像を組み立て、物事を長い時間の流れのなかで考える能力を培わせることに、教育の主眼をおいています。

本専修は学界・教育界や文化財保存の分野に多くの人材を送り出しており、近年は官公庁や企業に就職する人もふえています。どの道に進むにせよ、学生時代に培った、自身で調べ、考え、表現する能力は大いに役に立つはずで

# 考古学

ARCHAEOLOGY



写真:研究旅行(三内丸山遺跡見学)の様子

考古学は、過去の人間社会とその文化の探求を行う歴史学の一分野です。考古学の特徴は、城柵や集落などの遺跡、住居跡などの遺構、出土した遺物を主な研究の対象として、歴史の復元を進めるところにあります。旧石器時代、縄文時代、弥生時代、古墳時代、古代、中世、近世のどの時代でも、実際の遺跡や遺物に直接触れながら学びます。遺跡の発掘調査に参加し、出土した資料の整理や研究を通じて考古学の基礎を身につけて、卒業した後には考古学の専門職に進む道がひらかれています。考古学陳列館には、477点の国指定重要文化財をはじめ、日本考古学の基準になる豊富な収蔵資料を有しています。また、自然科学の様々な分野の協力も得て遺跡の研究をすすめています。遺跡がいつ頃のものなのかを知る年代の測定、昔の集落のすがた、そのまわりの自然環境、生活環境の復元、縄文時代の狩猟・漁撈、古代人の生産活動、土器や石器の製作技術、またその使い方など、多くの研究をすすめています。最新の分析・観察機器によって、様々な調査、研究方法を学びます。アメリカ、フランス、ロシア、中国、韓国との国際交流も盛んです。

# 研究室紹介

Laboratory introduction

## 東洋史

EAST ASIAN HISTORY



写真:知識を共有し演習に備える学生

東洋史学が本来扱う範囲は広くアジア全域にわたるのですが、本学の場合は東アジアの漢字文化圏、中でも中国史に中心を置いて教育と研究に取り組んでいます。中国社会は、数千年にわたって独自の文化を築き上げてきました。こうした特色ある「中華文明」の発展過程を明らかにし、その本質に迫ることを第一の課題としています。

紀元前15世紀、殷代において甲骨文字による記録が始められて以来、中国の人々は内乱や非漢民族の侵入等々動乱が相次ぐ中で、それぞれの思いを込めて多種多様の膨大な文献を著してきました。そうした原典史料から当時の人々の生きた姿を読み解くことが研究の第一歩であり、また、最も重要な課題であろうと考えております。シルクロードや三国志の英雄など、多様な関心のただなかで、中国古典文(漢文)史料に立ち向かい、原点に降り立って思索を重ねることに新鮮な感動と喜びを抱き得る諸君を期待します。

## ヨーロッパ史

EUROPEAN AND AMERICAN HISTORY

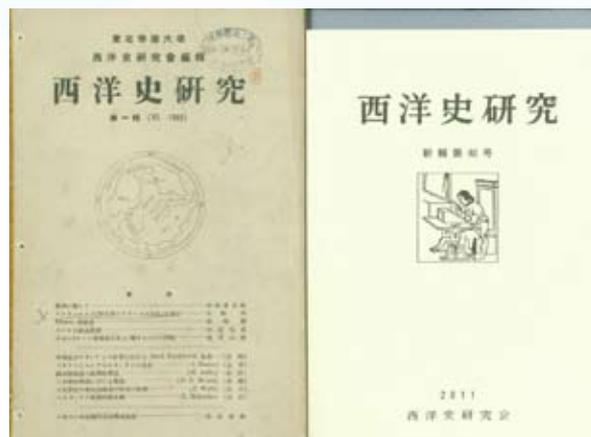


写真:研究室ゆかりの、わが国最初の西洋史学専門研究雑誌「西洋史研究」(左)創刊号(昭和7年)、(右)最新号(平成23年)

ヨーロッパ史専修は、文字資料が現れる時代の地中海世界から始まり、ヨーロッパ世界が成立する中世の長い時代を経て、直接現代につながる近代ヨーロッパや南北アメリカの諸地域を研究対象としています。

このような長い時代の、広い地域において展開した、人間たちの過去の営みを明らかにするために、彼らが書き残した文献史料を材料とし、考古学、人類学、経済学、政治学、社会学といった隣接諸科学の方法論をも利用して、21世紀に生きる私たちにとって不可欠の世界史像の総合的な再構成を行うことを使命としています。

外国語を学び、史実をじっくり分析し、現地に立って人類の過去・現在・未来を考えようとする多くの若い世代に、良質の研究環境と研鑽の場を提供しています。

1922年の研究室開設以来、社会の各分野で多数の卒業生が活躍しています。

# 東洋・日本美術史

EASTERN AND JAPANESE ART HISTORY



写真:京都龍神社での研修旅行風景

歴史を研究する学問のなかで美術史は、表現されたモノ—「美術作品」を対象とする点に大きな特徴があります。美術作品は、それ以前の作品の「かたち」をもとにして生まれ、またそれ以後の作品に「かたち」を伝えます。また、美術作品は、それを作る人間と、それを見る人間との間のさまざまなコミュニケーションを媒介します。表現と人間の関わりを考えることから、さまざまな人間像や歴史像を浮かび上がらせることができるのです。

作品が伝えている情報は「かたち」というなかなか言葉にしにくいものですが、それを、自らの感覚と知識をもとに言葉にする、それが美術史という学問の醍醐味です。このような学問ですから、まずは美術作品をよく見る必要があります。研究室のメンバーは作品観察のために国内・国外に出かけてゆき、新しい学生は、研究室としておこなう研修旅行の下準備や実地での観察を通して、研究の方法を学んでゆきます。その意味で美術史は体験の学問ともいえます。この研究室の扉を叩こうとする皆さんには、多くの美術を体験しようとする旺盛な好奇心を期待したいと思います。

# 美学・西洋美術史

AESTHETICS AND WESTERN ART HISTORY



写真:福島県立美術館での「実習」風景

近年、芸術に対する関心は高まり、それが何かを問う必要性が生まれています。本研究室では、芸術作品をどう見るか、その価値を美学において理論的な視野から、美術史において作品自体を歴史的コンテキストの中で調査し、現代批評の視点でその様式、図像、社会的位置を各自がテーマに即して研究しています。

特に、古代ギリシア・ローマ美術、イタリアルネサンス美術や、オランダ17世紀美術を中心に、レオナルド・ダ・ヴィンチ、ミケランジェロ、さらにレンブラント、ルーベンスといった代表的美術家の作家研究とその作品研究を行っています。あわせて、東西の美術を比較し、その交流の問題も扱っています。研究指導は、活発に行われており、演習での最新の欧米の研究論文について活発な議論を通して、また定期的な読書会や研究会により、学生同士が日々問題意識を掘り下げています。

本研究室では、多くが外国に留学し、その中から優れた研究者を輩出しており、学芸員資格を取得することができることから、就職先は多岐に渡っています。

# 研究室紹介

Laboratory introduction

## 社会学

SOCIOLOGY



写真:文学部研究室対抗野球大会にて

社会学は、社会の構造や変動に注目しながら、人間と社会との相互作用を包括的・多面的に研究する学問です。人文・社会系の学問の中でも同時代的性格が強いと言えます。自我をめぐるミクロ的な問題から地球環境問題に至るまで、幅広い領域で研究がおこなわれています。本講座は特に理論研究(M・ウェーバー、T・パーソンズ、J・ハーバーマスなどの現代的位置づけ、情報社会論、コミュニケーション論、都市空間論、社会運動論、政治社会学、医療社会学など)と、実証研究(都市・農村のコミュニティの研究や環境問題、地域医療・福祉など)を重視しています。指導にあたっては、外国語文献の精読をはじめとする理論的トレーニングおよびフィールド調査にもとづく社会現象の質的分析に力を入れています。所定の科目を履修することで、社会調査士の資格をとることができます。本講座の卒業生は、専門教育と訓練の成果を生かして、マスメディア、自治体などの現場で幅広く活躍しています。

## 行動科学

BEHAVIORAL SCIENCE



写真:2年生のグループ研究発表会

行動科学は、人間の行動や社会について「なぜ?」という問いをたて、それに答えようとすることで、人間と社会を統一的に研究する学問です。行動科学が扱う問題は、社会学・心理学・経済学・政治学など多くの専門分野と共有しているものです。また、主な研究方法として数学や統計学を用います。行動科学は、文科系・理科系といった枠も越え、様々な学問領域の交差点に位置しているのです。

行動科学研究室で取り組んでいる研究は、大きく二つあります。

一つめは、社会における様々な不平等や、人々の意識などについて、社会調査データを収集し、統計的に分析をする研究です。

二つめは社会現象を数学的に表現したモデルを作り、これを分析する研究です。個人の行動が集積した結果、意図しなかった社会的な結果が生じるという、環境問題などに多く見られる現象のメカニズムの分析を中心にしています。

幅広い知的好奇心を持った皆さんの参加を期待しています。

# 心理学

PSYCHOLOGY



写真:「実験風景」。心理学の必須スキルを、少人数で徹底的に実習します。

心理学は心を科学する学問です。もしかしたら人の心が自在に読めるようになるという期待を持つ人がいるかもしれませんが。しかし実際はちょっと違います。心理学が目指すのは、心の仕組みを明らかにすることです。このとき、沈黙考して頭の中で結論を得るのではなく、データを集めて科学的な手続きによって明らかにしようとするのが心理学の方法論です。

データの集め方は様々です。最先端の測定装置を用いて脳の活動を記録することもあれば、南米まで出かけて現地の人と触れ合いながら、その生活を記録することもあります。実験・調査・面接・観察…心理学専修では、講義で知識を学ぶだけではありません。実際の研究方法を「心理学基礎実験」「心理学研究法」というカリキュラムで、実習を通じて身につけてもらいます。具体的には、反応時間・フィールドワーク・ポリグラフ等々。おそらく初めて体験する現実の心理学に、新鮮な驚きと興味が湧くはず。そして、これらのテクニックは卒業論文に結実し、皆さんの大学生活を締め括ってくれることでしょう。

# 文化人類学

CULTURAL ANTHROPOLOGY



写真:研究室年中行事の一つ、カレー・パーティのーコマ。カレーを右手を使って食べる。

ブンカジンルイガク と聞いて、君は何を想像するだろう。遠くの世界の「奇妙な風習」をわざわざ見に行く「物好きな学者」の姿が頭に浮かんだとしたら、君のセンスは悪くない。文化人類学とは、長期間にわたって現地に住み込み、そこに生きる人々の日常生活を細々と観察し、人々の話に耳を傾けるというフィールドワークの手法を用いて、一見「奇妙」な生活習慣が現地の人々にとって持つ意味を解き明かし、彼らの人生観や世界観を理解しようという学問だ。日本を飛び出し、異質な世界に飛び込んで、「奇妙な風習」を見に行きたいと思うなら、君には文化人類学がピッタリだ。文化人類学研究室では、三年次から大学の外でフィールドワーク実習に取り組んでいる。短期の旅行や長期の留学で海外へ飛び出す学生も多い。そんな体験を活かして、マスコミやNGOに就職する者もいるし、研究者を目指して大学院に進む者もいる。文化人類学、やってみないか？

# 研究室紹介

Laboratory introduction

## 宗 教 学

RELIGIOUS STUDIES



写真:炎天下の恐山で死者供養をする人々

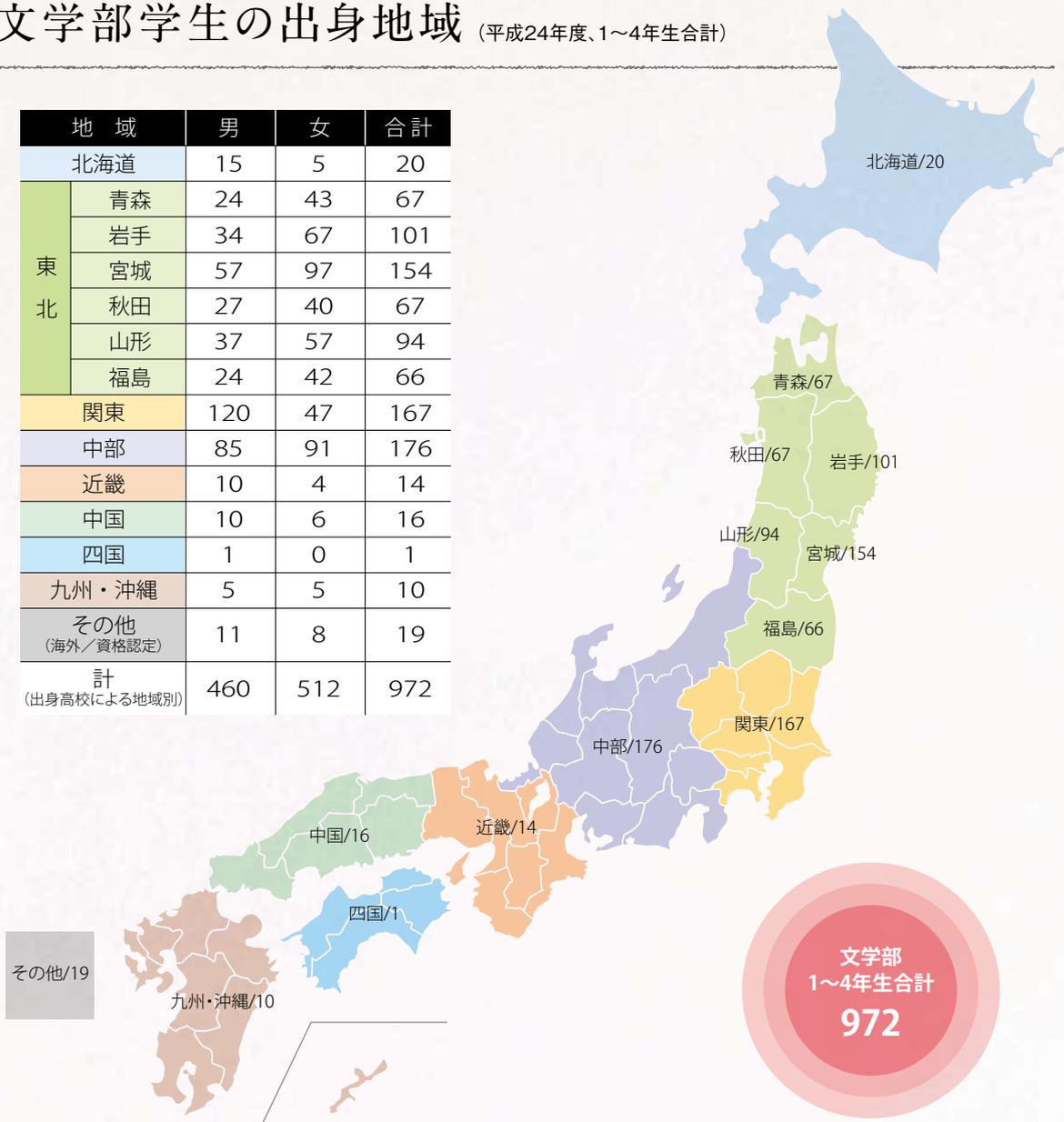
本州最北端、下北半島の恐山は死者の霊魂が集まる山といわれ、7月下旬の大祭時には多くの参詣者で賑わう。その境内の一角に五体の石仏が並んでいる。その石仏に赤い帽子と赤いヨダレカケをつけている老婆に「この仏サンは何。そして何をしているの」と尋ねた時のこと、即座に「お地藏さんだよ。赤ん坊の時に死んでしまった子どもの供養に来たのさ」と答えが返ってきた。老婆は亡き子のために一心に祈っている。しかし実は、この石仏は地藏ではない。五智如来といって、仏教的に言えば子どもを守ってくれる働きをもつ仏ではないのである。さてこのような場面をどう考えたらよいのであろう?教義に則った信仰こそが本当の信仰なのだろうか、それとも間違った対象にであれ一心に祈っている老婆の「信仰」が本当の信仰なのか?宗教学研究室では、このような問題をデスクワークとフィールドワークを併用しながら研究しています。以下に、研究室のウェブサイトのURLを記しておきます。関心があれば、ご覧下さい。

(<http://www.sal.tohoku.ac.jp/religion/index.html>)



## 文学部学生の出身地域 (平成24年度、1~4年生合計)

地域	男	女	合計	
北海道	15	5	20	
東北	青森	24	43	67
	岩手	34	67	101
	宮城	57	97	154
	秋田	27	40	67
	山形	37	57	94
	福島	24	42	66
関東	120	47	167	
中部	85	91	176	
近畿	10	4	14	
中国	10	6	16	
四国	1	0	1	
九州・沖縄	5	5	10	
その他 (海外/資格認定)	11	8	19	
計 (出身高校による地域別)	460	512	972	



## 学部学生の留学先 (過去3年間)

国/地域名	留学先 (機関名)	国/地域名	留学先 (機関名)
中国	■ 復旦大学	ドイツ	■ ゲッティンゲン大学
シンガポール	■ シンガポール国立大学	フランス	■ ストラスブール大学
インドネシア	■ インドネシア大学		■ レンヌ大学 ■ リヨン第2大学
アメリカ合衆国	■ カリフォルニア大学	スウェーデン	■ ウプサラ大学 ■ ルンド大学
	■ ペンシルバニア州立大学		■ ストックホルム大学
オーストラリア	■ ニューサウスウェルズ大学		■ ウーメオ大学

# 卒業生からのメッセージ

Message from Graduate



中津 美祐

英文学専修  
平成24年3月卒業  
東京都立国際高等学校出身

1

文学とは「人間の本質」がどのようなものであるかを研究する学問であり、この東北大学では25の専修がそれぞれの視点から日々深い考察を行っています。文学部1年生はすべての専修の先生方から授業を受ける機会があり、幅広い選択肢の中から自分の興味がある分野を選択できます。私は英語で書かれた文学に興味を持ったので、英文学専修を選択しました。読解が難しい作品もたくさん扱いましたが、研究室の先生方・先輩方からいつでも指導して頂ける環境にあつたので、英文学への理解が深まっていくのを実感できました。また英国人の先生による授業もあり、英語を書く・話すといったアウトプットの力を高めることもできました。

私は卒業後の進路として東京の企業への就職を選びました。就職活動時は、文学部で学んだ「人間の本質」に関する考えを話し、企業の人事担当者に良い評価を頂けたと感じています。

文学は人生で必ず役に立つ学問です。東北大学の少人数でアットホームな環境で学んだ知識と経験は、皆さんの一生の心の糧になると思います。

国語学研究室では、古今問わず様々な文献や研究論文・または実際に言葉を発する人々に触れ、そこで得られた内容やデータについて考察を重ね、授業や読書会にて参加者同士で議論を交わしていき、日本人のごく身近にある「日本語」を改めて見つめ直しています。

様々な観点から日本語を紐解いていけばいく程、日本語がまるで生き物の様に変遷を遂げている事や、その表現の豊かさ・美しさを実感する事ができました。

休憩中にふと出た一言が思わぬ議論に発展する等、研究室内の言語に対する意識は非常に高く、授業内外を問わず常に言葉について考える習慣が身に付きました。それは同時に、物事の捉え方や考え方を改めて考え直す契機にもなりました。

文明や科学の発展に伴い、効率化・簡素化がとかく進みがちな昨今、言葉もその弊害を受けていると私は思います。だからこそ、自分が発する言葉には、日本語が本来持つ豊かさや美しさを多分に含ませたい。日本語に対する誇りを持つことができた文学部での四年間に、今でも感謝しています。



尾高 匡史

国語学専修  
平成17年3月卒業  
埼玉県立熊谷高等学校出身

2



大友 優香

日本史専修  
平成23年3月卒業  
東北大学附属図書館職員  
宮城第一女子高等学校出身

3

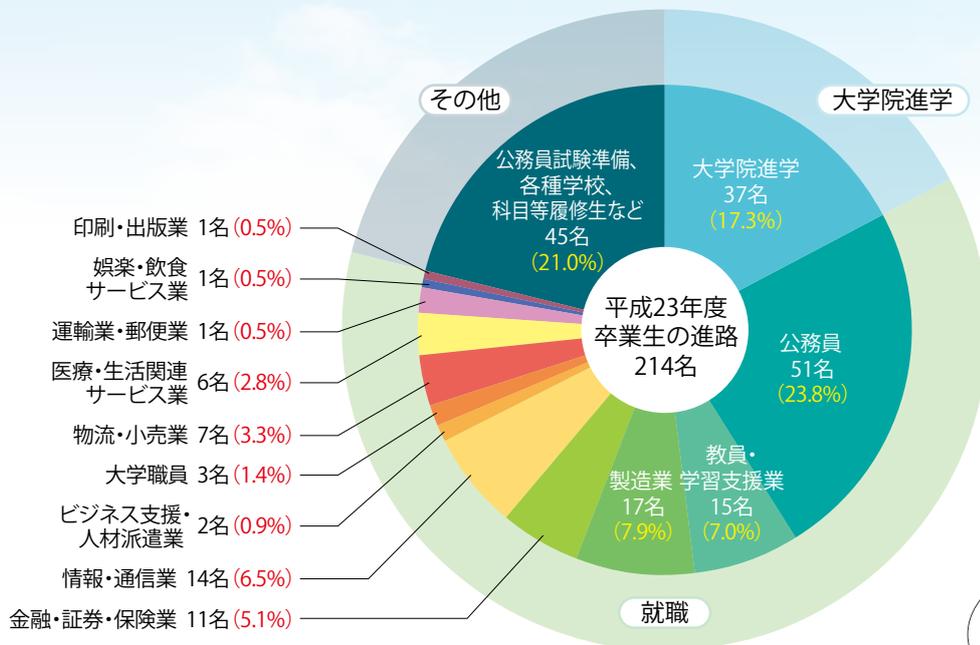
とにかく日本史を学びたくて文学部に入りました。そんな願いが叶った4年間でした。

私は近世史を専攻していましたが、専攻分野だけでなく、自分の興味に合わせて多角的に学ぶことのできる環境が整っていたと思います。近世、近代に書かれた膨大な量の日記を読み解いていく授業では、半泣きになりながらレジュメをまとめたのも良い思い出ですが、史料から何を読み取り、いかに説得力のある論証を導き出せるかについて考える過程は、その後の卒論や現在の仕事にも大いに役立っていると実感しています。3年次からは、卒論に向け自分の研究テーマも定まり、少しでも深く歴史学を理解しようと、朝から晩まで史料と向き合う日々が続きました。演習の授業では、先生方や先輩にたくさんのアドバイスを貰うことができ、さらに突き詰めて実証していくことができました。

他にも、夜遅くまで先輩に話を聞いて頂いたり、研修旅行や授業で同期と多くの時間を過ごしたり、振り返ってみれば、私の大学生活＝日本史専修で過ごした時間、と言ってもいいかもしれません。それほど濃く、充実した毎日でした。

# 卒業生の進路状況 (平成24年4月1日現在)

Graduate's Course Situation



To the Next stage!

## ◇就職先の例

公務員	関東信越国税局、東京地方裁判所、山形県警、東京都庁、宮城県庁、岩手県庁、山形県庁、福島県庁、秋田県庁、栃木県庁、群馬県庁、長野県庁、石川県庁、埼玉県庁、仙台市役所、名取市役所、栗原市役所、盛岡市役所、酒田市役所、中山町役場、米沢市役所、那須塩原市役所、渋川市役所、千葉市役所、野田市役所、横須賀市役所、江戸川区役所、北九州市役所、法務教官、東京都職員
教員・学習支援業	宮城県公立高校職員、岩手県公立高校職員、千葉県公立高校職員、聖ウルスラ学院英智中学高等学校、群馬県館林女子高等学校教員、大和町立大和中学校、登米高等学校、東京都国語講師、イッティージャパン、学校法人高宮学園代々木ゼミナール、進学会、仙台進学プラザ、代々木ゼミナール、明治図書出版
大学職員	国立大学法人秋田大学、山形大学、東北学院大学
製造業	サントリーフーズ、サントリーホールディングス、スタンレー電気、セキスイハイム東北、レンゴー、花王プロフェッショナル・サービス、LIXIL、オノヤ、デンロコーポレーション、神戸製鋼所、帝人、三菱テクニカ、日本たばこ産業、日立製作所、MOVE
情報・通信業	NTTコミュニケーションズ、シーエーシー、ミラクル・リナックス、旭化成アミダス、さんぱん、朝日新聞社、北國新聞社、岩手日報、共同通信社、東日本電信電話、富士通エフ・アイ・ピー、北日本新聞社
金融・証券・保険業	三菱東京UFJ銀行、きらやか銀行、岩手銀行、青森銀行、東邦銀行、諏訪信用金庫、茨城県信用組合、かんぽ生命保険、損保ジャパン、日本興亜損害保険
物流・小売業	トーハン、ニトリ、ミニストップ、伊藤忠エネクス、ドン・キホーテ
医療・生活関連サービス業	グッドタイムグループ、社団法人宮城県医師会、宗教法人江巖寺、大学生生活協同組合東北事業連合、中遠ガス、日本デイケアセンター
ビジネス支援・人材派遣業	クイック、グロップ
運輸業・郵便業	ヤマト運輸、京阪電気鉄道、東京地下鉄、日本郵便
娯楽・飲食サービス業	プリモジャパン
印刷・出版業	大日本印刷

## キャンパスマップ & アクセス

CAMPUS MAP & TRAFFIC ACCESS



## 東北大学 文学部

Tohoku University Faculty of Arts and Letters

〒980-8576 仙台市青葉区川内27番1号

TEL 022-795-6005(教務) / 022-795-6003(庶務) FAX 022-795-6086

●2012発行 東北大学文学部研究広報室

東北大学文学部についての詳しい情報は、ウェブサイトをご覧ください。

<http://www.sal.tohoku.ac.jp/index-j.html>

東北大学文学部

検索



東北大学 文学部

